

静寂の中、究極の音響

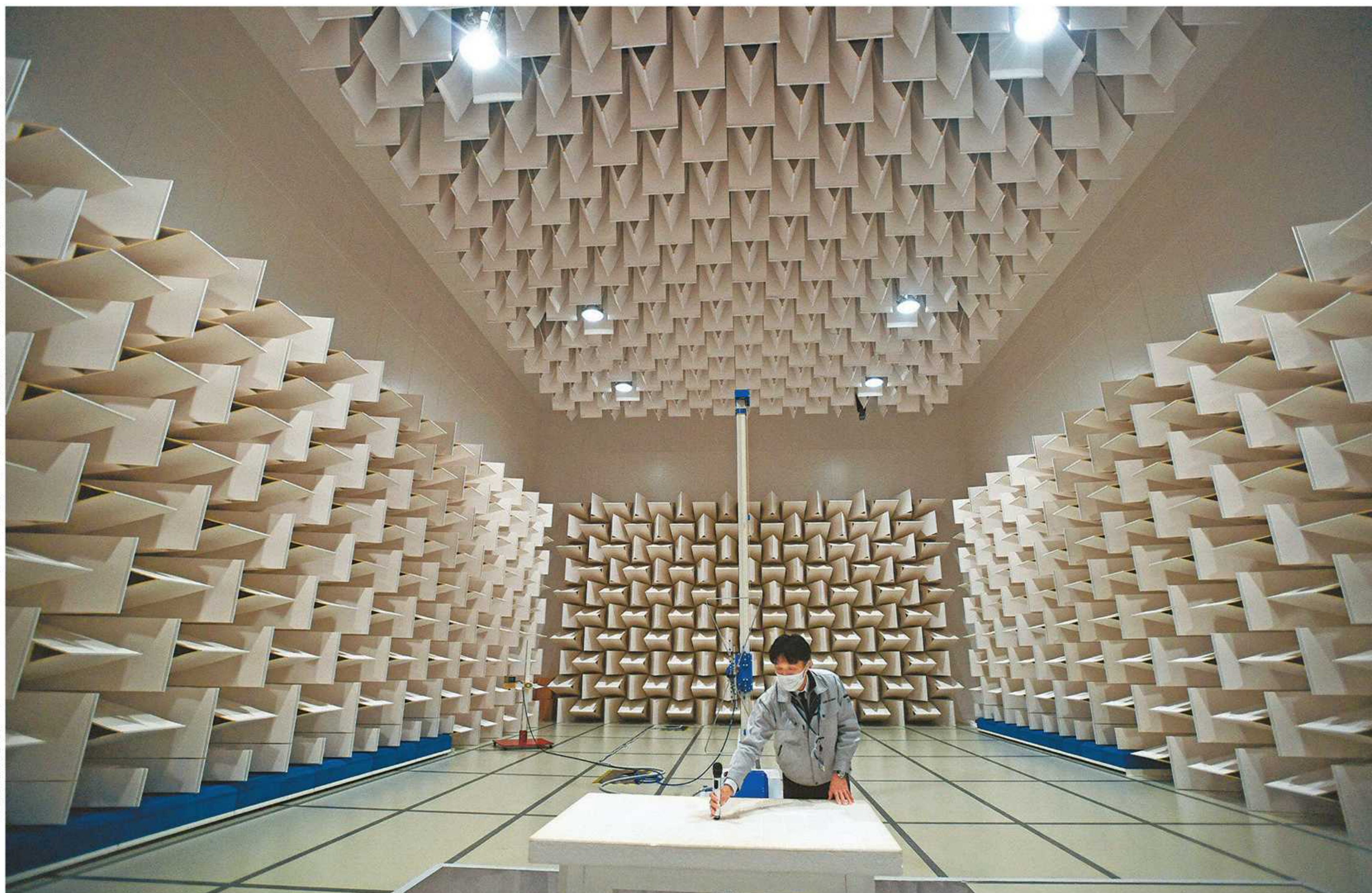
著名なアーティストのコンサートや音楽賞の授賞式をはじめ、県内では知事会見、議会中継などにも目にするオーディオテクニカのマイクシステム。同社の音響機器は、世界中のさまざまな場所で音を拾い、良質な音を再生し続けている。その開発、製造拠点が、実は県内にあると知り、

山や畑、田んぼに囲まれた自然環境豊かな地に「田園の中の研究所」をコンセプトにした新社屋を増築。最高の開発環境が整った。

拍子しても音は全く響かない。普段の音が響く環境とはまるで別世界だった。

旧社屋には、百人を収容できる音響ホールを備える。レコードプレーヤーのカートリッジから始まったオーディオテクニカのルーツと、創業者の思いが込められた年代物の貴重な蓄音機が並び、驚くのは、全てが音の鳴る完動品と

（清兼千鶴）



外部からの電波を遮断、吸収する高速測定が可能な電波暗室。いずれも越前市のオーディオテクニカフクイで（連覚寺宏絵撮影）



オーディオテクニカのルーツとなった蓄音機（手前）をはじめ貴重な数々が並び音響ホール



創業者の思い引き継ぐ

常務取締役・谷下巧さん(57)



オーディオテクニカフクイは、音響メーカーにとって試験性能を確認しやすい静かな環境にあります。設計して作ったものがそのまま店で売っている、県内では数少ない完成品メーカーで作る喜びがあります。創業者の思いが引き継がれて今があります。

無響室に測定



音を遮断、吸収する無響室。マイクホンやヘッドホンなど音響製品の測定には不可欠な測定設備だ



レコードカートリッジやワイヤレスマイクなど開発品の音響評価を目的に作られた音響ホール